

若かりし頃のトマス・ブレイク・グラバー(長崎大学附属図書館蔵)



右: グラバー
左: 三益二代目社長
岩崎彌太郎

グラバーは彌太郎亡き後も岩崎家と交友を続け、三益の相談役として招かれました。



グラバーの鼻子
食通 三益

Service & Shop

サービス&ショップのご案内

季節や天候により営業時間が変更することがございます。

園内ツアー

④ 旧長崎商賣夜門衛所



グラバー園内の不思議発見!
長崎さくガイドが無料で
グラバー園をご案内します。

- 実施日 土・日・祝
11:00~、14:00~
- 時間 約30分
- 予約時間 旧長崎商賣夜門衛所から
スタート
- 参加費 無料

レトロ写真館

⑤ 旧長崎地方裁判所長官舎



たくさんレトロ衣装から
お気に入りの1着を選んで
写真撮影。
30分600円~とお手頃な料金で、たく
さんのレトロ衣装の中からお気に入りの
1着を選んで写真撮影ができます。

- OPEN: 10:00~17:00
(受付終了: 16:30)
- ※カメラはご持参ください。

自由亭喫茶

⑬ 旧自由亭



日本で初めての西洋料理
レストラン「自由亭」跡で、
美味しい、くつろぎのひとときを。
池を一望できる。おめだ煮、お酒造る空間
で賑わいゆかりの派手なランプの光で考
案されたジグソーパズルはおすすめです。

- 営業時間 9:00~17:30 (ca. 17:00)

グラバーカフェ

⑫ 三浦演義前広場



花と緑に囲まれた
園内のオープンカフェ
長崎放浪さくさくコーヒー各種ハーブティー、
日本で初めて大量生産を開始した飲料
水、BANZAIブランドの「パンツァイサイ
ダー」、明治時代から続く伝統オリジナル
の「お手」はラムネがおすすめです。花と
木々に囲まれた開放感たっぷりのスぺ
ースは、園内散策の休憩エリアとして人気の
スポットです。

- 営業時間 10:00~17:00 (ca. 16:30)
※冬期は11:00~16:30 (ca. 15:00)

ガーデンショップ

⑮ 長崎伝統芸能館



グラバー園のお土産は
ガーデンショップでどうぞ
長崎の定番のお土産をはじめ、園内に
あるハートストーンをモチーフにした
限定グッズや、グラバー園でしか手に入
らないオリジナル商品を取り揃えて
おります。

- 営業時間 8:30~閉園時間



Welcome to Glover Garden



トマス・ブレイク・グラバー

Thomas Blake Glover / 1838 - 1911

開港した我が国に近代化の風を送り込んだ冒険商人

スコットランド出身。安政の開港と同時に来日しグラバー商会を設立しました。グラバーは貿易業をする傍ら、近代化に向かう日本に様々な面で尽力しています。例えばさるる知識の機軸を志す若者たちの援助を行い、長州藩の伊藤博文ら5名、さらに幕府側の五代友厚ら19名がそれぞれイギリスへ上訪した。その帰国した五代はグラバーと共に小倉造船場(平成27年世界遺産登録)を建設しています。またグラバーは佐賀藩と共に高島炭坑(平成27年世界遺産登録)を開採しました。その後高島炭坑は三益の創業者である岩崎彌太郎(1834~1885)によって買収され、グラバーは三益の従業員の一員として所長に就きました。またグラバーは現在のキリンビールの前身になる「ジャパン・ブルファイバー・カンパニー」の創設に携わり、明治27年には社名を改めています。その後この会社は三益二代目社長岩崎久弥(1893~1916)らに売却し「麒麟麦酒株式会社」と名前を新たにしました。一方三益の倉庫倉三郎(1870~1945)はホーム・リンガー商会に入社し、熱気トロール船を我が国に初めて導入するなど、日本の水産振興に大いに貢献しました。またのちに日本四大漁獲にも数えられる「グラバー漁獲」を残しました。

日本の産業に貢献し、新時代

フレデリック・リンガー Frederick Ringer / 1838 - 1907

長崎居留地の発展に尽力した事業家

イングランド出身。元治元年、島根県長門を以ていたグラバー商会で製茶作業者と輸出の監督として長崎に招かれます。その製茶作業者には「ホーム・リンガー商会」を設立し、貿易業をはじめ幅広い事業を行いました。その事業の中には製茶業や製粉会社、船渠を営むた漁業、ガス会社、電気発電所、日刊英字新聞社などの経営があります。なかでも開業した「ナガサキホテル」は三益の建てたレンガ造りで各都府に電話や冷蔵庫が設置された当時東洋一巨大なホテルを営われました。さらに長崎の公衆衛生にも著目し、衛生的な水を供給するためにイギリス人技師を長崎へ要請し日本で3番目となる近代的な水道が設置されました。明治23年には「ホーム・リンガー商会」の支社として「瓜生商會」を下関に設立し、現在は門司で「ホーム・リンガー商会」の名前で業務が受け継がれています。

ロバート・ウォーカー ジュニア Robert Walker Jr. / 1881 - 1958

世代を超えて長崎を愛した朝日家

ロバート・ニール・ウォーカー(Robert Neil Walker 1851~1941)と孫田サト子との間に生まれ、その後日本国籍を取得。名前は「ウォーカー・ロバート」と改めました。父のロバートは長崎の船渠の船長として日本の海運に大きな貢献をいたしました。我が国最初期の清涼飲料水製造業も手がけ、商品の清涼飲料水に「日本製の」ラベルと名付けるほど朝日社でした。園内にある「旧ウォーカー住宅」は息子のウォーカーが暮らした邸宅です。

への扉を開いた偉人たちが。

ウィリアム・ジョン・オルト William J. Alt / 1840 - 1908

長崎から日本茶を世界に広げた成功者

イングランド出身。安政の開港と同時に来日し、オルト商会を設立。長崎三女侯の一人である大浦重(1828~1884)と提携して九州一円から茶を買い求め、製茶輸出業を通じて日本茶を世界ブランドとして世界に広げました。オルトも各藩士たちと交友を続け、いろいろな出来事では肥前藩の長崎宿舎となっていた聖徳寺で岩崎彌太郎、後藤兼三郎(1838~1897)らと会談が行われ、そのあと彌太郎はオルトのもとを訪ねた話が残っています。またイギリスの軍艦イカルス号の乗組員2人が長崎湾沖で溺れた「イカルス号事件」の際には、雇いのかかれた海軍艦の無事を断るために彌太郎と共にイギリス領事館へ赴いています。

草野 文吉 Jokichi Kusano / 1840 - 1886

日本における「西洋料理の父」。

長崎出身。出島のオランダ商館で働きそこで西洋料理を学びました。その後自由を改称した長崎で「長崎料理(リョウリン)」という日本で最初の西洋レストランを開業しました。客の中には五代友厚、小松平、伊藤博文などの当時の指導者になる志士たちがいました。1868年(明治元年)大阪に移住し、ホテル兼レストランである「自由亭ホテル」を創業。1868年(明治元年)京都にも支店を開きました。約10年後の1878年(明治11年)長崎に戻り新聞社社下に2階建ての西洋料理店「自由亭」を開業しました。

150年分のヒトトキ。
nagasaki minamiyamate
GLOVER GARDEN

〒850-0931 長崎県長崎市南山手町8番1号
tel:095-822-8223 fax:095-823-3359
【開園時間】8:00~18:00(入園受付は17:40終了)

www.glover-garden.jp
Mail: nagasaki@glover-garden.jp

世界遺産

旧グラバー住宅は世界遺産です。
明治日本の産業革命遺産 鉱山・製鉄・造船、石炭産業

2015年7月5日、「旧グラバー住宅」は世界文化遺産に登録されました。

異国情緒豊かな建物と、歴史の裏に隠されたエピソードの数々。石畳の道をたどりながら、ロマン溢れる歴史の舞台をたずねてみましょう。

♥ハートストーン
見つけると恋の願いが叶うかも?ハートは地図の♥マーク。石畳の中のハート型の石を探してみよう!

15 長崎伝統芸術館



長崎の秋の大祭「長崎くんち」に奉納される龍踊りの白龍、青龍、各町の奉納踊りを先導する「象鉦(かざぼこ)」と呼ばれる豪華な飾りなどを展示。お祭りの様子も放映しています。

14 旧グラバー住宅(国指定重要文化財・明治日本の産業革命遺産)



文久3年に建てられた現存する日本最古の木造洋風建築。建設当初はL字型の平屋で建物の周囲がベランダで囲まれたバングロー風の建物でしたが、増改築を繰り返して、明治になると独立していた台所がある附屋と主屋の間に廊下が増築され現在の形に落ち着きました。外観は日本瓦で覆われ、壁は日本の伝統的な土壁です。一方室内は典型的な西洋風の造りになっています。部屋を明るくするために大きな窓が設置され、台所にはその形と趣からその名も「コンニャク煉瓦」と呼ばれている煉瓦が敷き詰められています。また台所付近の天井には明治中期以降に造られた扇根裏部屋も見ることができます。

13 旧自由亭(喫茶室) 移築



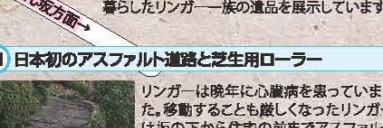
明治11年に諏訪神社下(馬町)に建てられた西洋料理店。当時はこの店に内外の貴族や、地元高官など社交の場に使われていました。店主であった早野文吉後、自由亭は閉店。店は日本政府が購入し、太平洋戦争後には検察庁官舎として使用されました。

12 三浦環・ブッチェ二像



世界的に有名なオペラ「マダム・バタフライ」は長崎が舞台になっており、物陰に登場する景色はまるで旧グラバー住宅から望む景色を思わせる描写です。戦後旧グラバー住宅で暮らした遊覧車の大佐夫人は住宅から見える景色と物語の場面がよく似ていたことから「マダム・バタフライ・ハウス」という愛称をつけました。現在園内にはオペラマダムバタフライのプリマドンナとして有名になった三浦環と作曲家のブッチェ二の石像が立てられています。

11 日本初のアスファルト道路と芝生用ローラー



その横には芝生を育てるために使われていたローラーがあります。旧オルト住宅前の庭や旧リンガー住宅から旧グラバー住宅をつなぐ庭には芝生が植えられています。

10 旧スタイル記念学校 移築



明治20年、東山9番に建てられたミッション系の学校。居留地時代に造られた典型的な木造洋風建築。3階は鐘楼になっており、学校名は学校建設に資金を寄附した宣教師W・H・スティールの名前に由来しています。



1 明治時代の水道共用栓

長崎市の近代的な水道は明治24年に完成しました。この設計を携わったのがイギリス人技師J・W・ハートで、リングアと呼ばれる来崎しました。完成した水道共用栓は市街水栓番が朝に栓を開き夕方に栓を閉じる作業をしていました。

3 旧三菱第二ドックハウス 移築

「ドックハウス」とは船を修理している間、乗組員たちが宿泊した施設のこと。この建物は明治29年に建築。典型的な西洋風建築で、対岸に見える三菱重工長崎造船所の第二ドックのすぐ側に建てられました。

4 旧長崎商校門衛所 移築

東京・神戸・山口に続き、日本で4番目に設立された官立高等学校である長崎高等商業学校にあった門衛所。モダンな装飾の中に障子の間があり和洋折衷の造りになっています。

第2ゲート(料金所) 入口・出口

グラバー スカイロード方面

5 旧長崎地方裁判所長官舎(シトロウ真蹟) 移築

明治16年頃、長崎市上町に建てられた長崎地方裁判所の長官舎。居留地の外側に建てられた洋風の官庁建築として長崎で唯一残る貴重な建物です。外部は洋風ですが、内部は日本人の生活様式に合わせた造りになっています。

6 旧ウォーカー住宅 移築

イギリス人実業家、ロバート・ニール・ウォーカーの次男が暮らした邸宅。大浦天主堂のすぐ隣に建てられました。木造平屋建ての建物にはイギリス式の暖炉と煙突に日本瓦と和風の庭(ひさし)が設けられています。ほかにも台所や和室がりましたが園内にこの建物のみが移築され、ほかは後に取り壊されているようです。

7 フリーメイソン・ロッジ(集会所)の門

フリーメイソンは中世イギリスで数々の大聖堂を建てた石工が組織した友愛団体です。この門柱は長崎で熱心な会員だったイギリス人が自社の門に建てたもので、そこから移築されたものです。

8 旧リンガー住宅(国指定重要文化財)

慶応3年ごろに建てられた三方をベランダで囲まれたバングロー風の建物。ベランダの床石には、ウラジオストクから運んだ御影石、ベランダの屋根を支える角柱には天草の石を使用、木と石が調和した珍しい木骨石造りです。リンガーは「ナガサキホテル」(現在の旧香港上海銀行)というホテルの開業を行っており、現在住宅内では当時ホテルで使用していたカトラリーを展示しています。

9 旧オルト住宅(国指定重要文化財)

元治元年ごろに建てられた石造りの洋館。施工は大浦天主堂や旧グラバー住宅を手掛けた小山秀です。天草の砂岩を基礎に使い、ベランダにはタスカン様式の列柱が並びます。かつてこのベランダでイギリス領事館のパーティが開催されたこともありました。この住宅はオルトが大阪へ移住したあとリンガー一家が暮らした時期があります。現在、室内では旧オルト住宅で暮らしたリンガー一族の遺品を展示しています。

10 旧スタイル記念学校 移築

明治20年、東山9番に建てられたミッション系の学校。居留地時代に造られた典型的な木造洋風建築。3階は鐘楼になっており、学校名は学校建設に資金を寄附した宣教師W・H・スティールの名前に由来しています。